

広島技調じゃけん！通信

2021.7
Vol.43
SUMMER

今年に入り、当事務所と土木学会共催の講演会「実りある学舎」を2度（昨年度含む）開催しました。新型コロナウイルス感染拡大の影響でWEB会議となりましたが、令和2年度第2回は133名、令和3年度第1回は過去最多となる185名の方に聴講いただき、好評のうちに終わることができました。

なお、実りある学舎については、次回秋頃の開催を予定しておりますので、**広島技調** にご興味のある方はぜひご参加ください。

検索

令和2年度
第2回

実りある学舎を開催しました！ ～カルシア改質土が港湾整備を変える～

港湾・空港等工事におけるリサイクル材の促進について、「港湾・空港等整備におけるリサイクルガイドライン」が平成30年4月に改訂され、建設副産物、産業副産物等を港湾・空港等工事の建設資材として利用する際の技術的取り扱い及び法令面での取り扱いについて示されたところです。その中で、中国地方整備局管内では浚渫土砂の活用は重要な課題となっており、浚渫土砂とスラグを混ぜ合わせたカルシア改質土については、これまで、室内試験や研究開発を重ね、平成29年2月に「カルシア改質土利用技術マニュアル」が発刊されています。しかし、港湾整備におけるカルシア改質土の活用は、実績も少なくこれからです。

本講演では、カルシア改質土研究会 技術委員長（五洋建設株式会社 土木部門 顧問）中川雅夫 氏を講師にお迎えし、カルシア改質土の性質や活用実績、最新の知見についての解説をしていただき、今後の港湾整備の活用の可能性についてご講演いただきました。



講演会風景（広島技調）

《日 時》

令和2年2月4日(木)
14:00～16:00

《テーマ》

カルシア改質土が
港湾整備を変える

《講 師》

カルシア改質土研究会 技術委員長
(五洋建設株式会社 土木部門 顧問)
中川 雅夫 氏

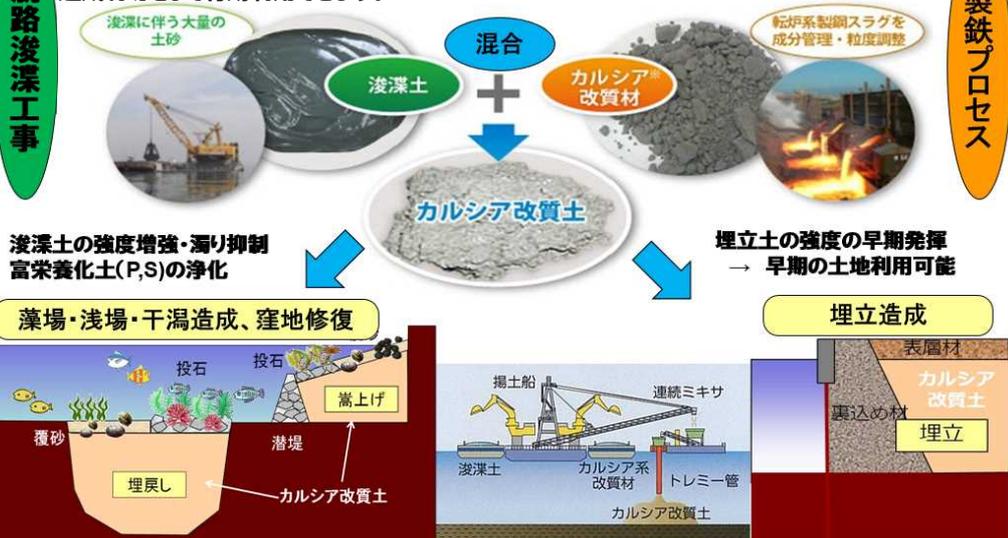


カルシア改質土とは

カルシア改質土とは、軟弱な浚渫土に、転炉系製鋼スラグを製品化した「カルシア改質材」を混合して改質した改良土で、沿岸環境再生のための浅場・干潟造成材・潜堤材や埋立造成材等として有効利用できます。

航路浚渫工事

製鉄プロセス



聴講者からは
「カルシア改質土の基本特性から工事事例まで解説いただき、参考になった」
「実施工による実績の積み重ねによるブラッシュアップが大切だと感じた」
などの感想が寄せられました。

※カルシアとは酸化カルシウム (CaO)のことを意味します

実りある学舎を開催しました！ ～中国地方における波浪観測の現状と課題～

中国地方は、瀬戸内海側と日本海側とで、自然条件、社会・経済条件が大きく異なります。瀬戸内海側は、比較的静穏な海域であることから、化学・鉄鋼など多くの企業立地により我が国有数のコンビナートを形成しています。また、瀬戸内海には、100余りの有人島があるので、海上交通が生活航路として重要な役割を果たしています。他方、瀬戸内海沿岸は、台風による高潮・高波による被災を受けることもあります。日本海側は、日本海特有の冬季風浪が厳しいため、やはり災害に強い社会基盤施設の整備が求められています。

中国地方整備局では、鳥取港などで波浪観測等を行っており、港湾施設等の設計・施工の高度化に活用しております。近年は、地球温暖化等により巨大な台風が来襲するなど、これまでに経験していない異常な気象・海象現象の発生が見られます。同時に、南海トラフの巨大地震による津波対策も重要な課題となっております。

本講演では、早稲田大学 非常勤講師（株式会社エコー 常任顧問）永井紀彦 氏を講師にお迎えし、長年にわたる全国港湾海洋波浪情報網（ナウファス）の開発・改良・運用に取り組んで来られたご経験をもとに、気象変動に伴う波浪変化、最新の波浪観測技術、瀬戸内海や日本海の沿岸における波浪観測の現状と課題について、ご講演いただきました。



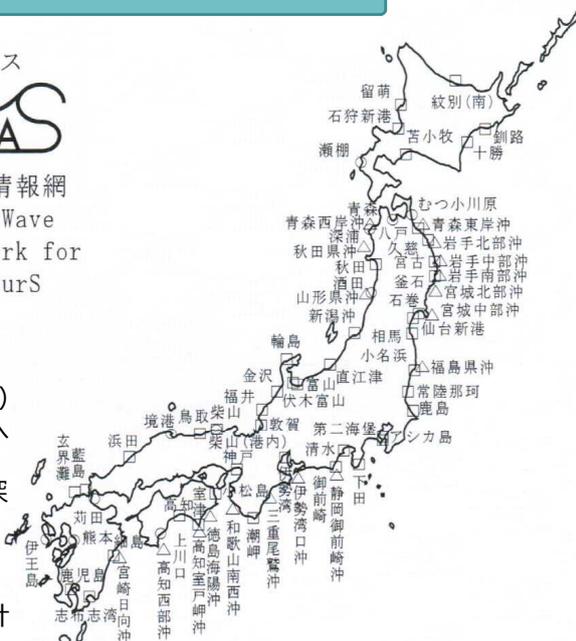
↑ 講師も含め、Teamsを用いての講演となりました

ナウファス（全国港湾海洋波浪情報網）



全国港湾海洋波浪情報網
Nationwide Ocean Wave
information network for
Ports and Harbours

- 全国78地点（GPS波浪計18地点含む）
- GPS波浪計の全国沿岸への展開中
- 沖合20km程度の大水深海域における波浪と洋上風の連続観測
- PARIにて総合管理解析
- 波浪観測年報と長期統計報刊行



2018年	計78地点
□: 海象計・継続観測地点	49地点
○: 海象計以外・継続観測地点	11地点
△: GPSブイ・継続観測地点	18地点

《日 時》
令和3年6月3日(木)
14:00～16:00

《テーマ》
中国地方における
波浪観測の現状と課題

《講 師》
早稲田大学 非常勤講師
(株式会社エコー 常任顧問)
永井 紀彦 氏



聴講者からは
「普段何気なく活用しているナウファスの発展の歴史に加え、波の理論、計測・解析手法の詳細を知ることができ、非常に有意義な時間だった」
「日本の海象条件に合わせた洋上風力発電の建設・運用技術の確立に、施工業者として携わって行きたい」などの感想が寄せられました。

